

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

福山市立中央中学校区	校番49	福山市立桜丘小学校
最終更新日		2024年(令和6年)1月30日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、各学校感染拡大防止策を考え工夫されて学習、行事に取り組まれている。各小学校の授業参観から子ども主体の学びを育む様子が感じられた。引き続き、子どもたちの主体性を育む取組を進めてほしい。 評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できると肯定的評価をいただいております。引き続き努力してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、子どもの主体の学びづくりの中で主体性が育ちつつある。 小中で授業研究をすすめ、自分の考えをもち深め、対話する力をつけてきている。 子どもたちが他者と協働して問題解決する力を付けていく必要がある 不登校傾向にある児童生徒数の出現率が中学校区で高い。 	<p>育成する力</p> <p>21世紀型“スキル&倫理観”</p>	<p>【学びに向かう力】</p> <p>【課題発見・解決力】</p> <p>【自己肯定感】</p>
		<p>めざす子ども像</p> <p>(義務教育修了時の姿)</p>	<p>ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 校区合同で実施する授業研究 生徒会、児童会による「いじめSTOP集会」や「あいさつ運動」の実施 校区校長会・校区教頭会・校区各主任会等を通しての連携

III 自校

<p>ミッション</p> <p>自ら未来を切り拓き、たくましく生きる力をもった児童の育成</p>	<p>育成する力</p> <p>21世紀型“スキル&倫理観”</p>	<p>【学びに向かう力】</p> <p>【課題発見・解決力】</p> <p>【自己肯定感】</p>
<p>学校教育目標</p> <p>みんなで 学びをつくる 心をそだてる 体をきたえる</p>		
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と対話しながら考えを深めたいと感じる児童が増えている。 学習をやり切ることができない児童もあり、基礎学力の定着に課題がある学年もある。 与えられた課題に取り組むことはできるが、自分から課題を見つけたり工夫して解決したりすることには課題がある。 自分の考えや思いを相手に分かりやすく表現することに課題がある。 自己肯定感や自己有用感が低い傾向にある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題解決型の授業は定着している。 児童は対話活動を通して学びを深めることを意識している。 児童自ら課題発見し、協働の学びによって解決する学びづくりの研究を継続する必要がある。 	<p>めざす子ども像</p> <p>低</p> <p>A 目標を決め、自分のがんばりを振り返りながらねばり強く取り組む。</p> <p>B 自分の疑問・関心から課題を見つけ、友達と協働しながら工夫して解決に取り組む。</p> <p>C 自分と友達の良さや頑張りを知り、良さを伸ばそうとする。</p>	
	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>伝え合い、学び合う児童の育成</p> <p>～対話型授業を通して深い学びを獲得する～</p> <p>一人一人が自分の考えをもち、対話を通して学びを深める</p>
	<p>めざす授業の姿</p>	<p>効果的な対話場面の設定によって、児童が課題を見つけ、「教科の見方・考え方」を働かせながら、自ら学びを深めようとする事ができる授業</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 桜丘小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力を入れた達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	力を入れた達成評価	総合評価	改善方策		
3	主体的に学ぶ児童を育成する。	★	継続	自分の考えをもとに対話を通して考えを深める学び方の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 対話による学びの深まりをねらい、根拠を明確にした表現力を育成する。 教材研究日・授業研究を設定し、児童の主体的な学びの姿や授業改善について交流する時間をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話を通して自分の考えを深めた児童を昨年度末(83%)から3%以上増やす。 児童の考えを深めることをねらった対話型授業を実践した指導者を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えの理由を明確にする意識が高まった対話の目的を明確にし質を上げる必要がある(児童:80.7%) 教材について話す機会を設定したことで具体的にめざす学びの姿がとらえられた(指導者:88%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 対話による学びの深まりを実感できるような場面・目的・環境等を工夫し、対話の質を上げる。 取組シートをもとに改善点に焦点化した交流を図り、授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にすることで対話の質を高め、場面等を工夫することで児童の学び意識を高めた。(83.4%) 研修を通して改善点を共有し、実践につなげたことで、授業改善への意識が高まった。(88.9%) 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 対話を通して学びを深めるための対話スキルの上昇を図るとともに、友達の考えの良さに学ぶ意識を高める。 教材研究を通して、学びへの意欲を引き出す学習課題・発問を吟味する。
2	互いの良さから学び合い、自己の成長につなげる児童を育成する。		継続	互いの良さを見つけ自分の良さを再発見したり自分に活かそうとしたりする児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> メッセージカードで他学年の良いところを伝える。 メッセージカードを各学級の廊下に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の良さを見つけられる児童を80%以上にする。 友達の良いところを自分に活かそうとする児童を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活場面や行事を通して見つけた良さを学年を超え伝え合った。(児童:85.3%) 掲示するだけでは良さを取り入れようとする意識がつかない(児童:69.6%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 内容を集会・放送を活用したり学級内で紹介したりして積極的に広げる。 良さや頑張りを価値付け、取り入れ合せて共に高まるようとする意識を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 機をとらえて積極的に見つけた良さや頑張りを伝え合った。(90.4%) 集会や放送を通して発信することで、良さを学ぶ意識が高まった。(83.6%) 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に互いの良さを認め合う活動を工夫する。 児童の良さや頑張りを積極的に発信し、友達の良さを学ぶ意識を高める。
2	自己の課題を知り、改善に向けて主体的に取り組む児童を育成する。		継続	自分の体力課題を発見し、解決に向けて積極的に取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードやタブレット端末を活用し、個人目標を立てたり振り返りする。 児童会活動を活用し、多様な運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりの内容について自分で考え、主体的に取り組む児童を85%以上にする。 運動することを楽しむ児童を85%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上カードをもとに、自分で選んで取り組んだ。(児童:80%) ドッジボール大会を実施するなど運動の機会を設けた。(児童:95%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動や陸上運動において個の目標と伸びを可視化したり技を選択したりする。 児童会活動や業間運動を工夫し、運動が好きでない児童の運動機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上カードの取組や器械運動において技を選択して意欲的に取り組んだ。(80.8%) 目標を設定した業間運動に取り組むことで意欲的に運動した。(92.4%) 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に体力向上に取り組むよう、カードを活用して個人の目標を設定したり技を選択したりする。 授業で対話活動を仕組んだり児童主体の業間運動を工夫したりする。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。